

わが街、落合その⑤

ふらっと新宿・落合店に行ってきました。



人もお店もとてもあたたか

西武新宿線中井駅の改札を出て左へ。踏み切りをわたってすぐ右手に見える八百屋さんの路地に入って10メートルほどの場所に店はありました。向かい側はパチンコ屋さんという賑やかな一角では静かなたたずまいのお店です。

外観からして温かそうな雰囲気、入店前に写真を撮ろうかなあ、と考えていると、中からこれまたとても穏やかな笑顔をたたえた、まあ〜い雰囲気男性が登場して、「いらっしやいませ!」。事前に連絡をしていたので「お待ちしていました。ふらっと新宿・落合店の秋里と申します」と、ますますまん丸な柔らかな顔になっての名刺交換。その雰囲気はこちらもホッと緊張もとけてしまいました。

さっそく入店。店内は15席ほどで、私が入った12時半頃には7人ほどの方が席に座っていました。店内を見渡すと優しい感じの絵画が飾られ、ランチやデザートメニューが紹介されているメニュー表やその月に店内で開催されるミニイベントの日程表も目につきました。

きれいな花柄模様に囲まれた黒板には「本日のランチメニュー」としてAランチ(天津飯、スープ、小鉢つき)、Bランチ(鶏のから揚げ、スープ、小鉢つき)、そしてCランチ(きつねうどん、小鉢、小むすびつき)と書かれていました。また、落合店では、近く福祉施設や公共施設に出前も行っていて喜ばれています。

「さて、何を食べようかな…」ちょっと周

りを拝見。「小鉢やスープ付のどんぶり系はいかにも人気がありそう、ランチの王道唐揚げも美味しそうで魅力的だし、小むすび付のきつねうどんも捨てがたいなあ。」

いろいろ迷って、結局、人気で選んでみました。「天津飯をお願いします!」、丸顔の秋里さんが「大盛りも小盛りも料金変わりませんが、ご飯の量はいかがなさいますか?」小声で「小盛りをお願いします」と返事をしました。(秋里さんを前にして見栄を張ったわけではないのですが…)、「はい、それでは500円になります」。ここは前金制なので支払いを済ませてから番号札をもらって席で待ちます。

エプロンと三角巾を着けた女性がゆっくりと丁寧に「お水をどうぞ…」と運んでくれました。お水を飲みつつ、食事が届くのを待っていると、お客さんが次々とみえました。カウンターの中で忙しそうに対応する秋里さん、どんなに忙しくても柔らかな笑顔を絶やさない秋里さん。「おお、プロだなあ」と思わず感心しました。何やらビニール袋に詰めてお客様に取りに来たお客さんのようです。店内の様子を観察しながら秋里さんがくださった資料に目を通しました。

ふらっと新宿は、新宿区内に6店舗あります。①新宿7丁目大久保通り沿いにある「東戸山店ここ・からカフェ」②高田馬場駅からほど近い「高田馬場店」③新宿スポーツセンター内にある「ベジタブル

カフェふらっと」④四谷区民センター1階ホールの「四谷店」⑤若松河田駅構内の「きぼう工房2939Espoir」そして、⑥中井駅前の「落合店(愛称:ふらっとひとやすみ)」です。

ふらっと新宿は、障害者や高齢者、若年者で就労に困難を抱える方々を支援している新宿区勤労者・仕事事センターが運営していますが、落合店はNPO法人・新宿西共同作業所ラバンスが同センターから業務委託をされて運営しています。

ラバンスは精神障害を持つ皆さんが通所して就労や創作活動をしている施設で、以前は、精神障害者共同作業所と呼ばれていました。この法人の活動方針は「病気や障害を持つ方々が、地域で自分らしく生きること、人との豊かな出会いを得ることを大切に、お一人お一人の目的や、希望を尊重したサービスを提供すること」です。ラバンスの語源は、フランス語で「前進、前向き、一歩一歩」という意味だそうです。

ふらっと新宿は、それぞれの立地に合わせて物販中心のお店や飲食中心の店までいろいろですが、落合店の長は、地域の高齢者のサロンになったり、子育て支援の紙芝居、生涯学習を推奨する意味での絵画教室、交友関係を広げるマージャン教室等のプログラムを取り入れている点にあります。路地裏の小さなお店ですが、しっかり地域住民の交流に貢献しています。

障害者の就労支援も展開

そして、もうひとつ、精神障害者の就労訓練や就労体験の場として活用されていることです。そのため、ふらっと新宿・落合店で働くスタッフには、精神障害を持つ方も含まれていて、障害を持つ方の就労をサポートしながらお店の運営のお手伝いもするジョブサポーターもいます。このお店では厨房の責任者も女性でジョブサポーターも地域のお母さんたちが頑張っています。メニューも味も店の雰囲気も家庭的で、チェーン店やファーストフード店が多くなっている中では手作り感や人の温もりが伝わるとも貴重なお店です。

自慢のランチは、3人入ればめいっばいの厨房から生み出されていました。おお、私のもとにもランチが届きました。

主役の天津飯に小鉢がふたつとスープが運ばれてきました。スープはさっぱり味。セロリの出汁が効いたトマト、エノキ、タマネギ入りの塩コショウ味。小鉢のナムルはワカメとモヤシ。サラダは切干大根、コーン、ハム、キュウリのマヨネーズ和え。

どれもさっぱりした味付けで、たくさん食べても胃に優しい感じです。(「これなら大盛りでも良かったかな…」)ランチをのんびりと食べていると、お客さんが入れ替わっていきました。

マイペースで楽しむ

「あら、今日はいっぱいなのね」、常連さんらしい方がおいでになり、秋里さんとお話しています。「合い席でもよろしいでしょうか?」、「私はいいわよ」、「私も構いませんから、どうぞ」。お互いに昔から知り合いだったようなやりとりです。結局、その方は、私の向かい側に座りました。

「今日はマージャンがあるんですよ、初めての方も大歓迎です」と秋里さんに案内され、その女性はマージャンも楽しんで行かれることを決めたようでした。

「以前は、お客さんが2〜3人しかいない

ことが多かったのに、最近は人気なんだね〜」。初めて会った私にも気さくに話しかけてくださり、楽しい食事時間になりました。ご本人がおっしゃる年齢にはとても見えないお若いその方は、マージャンはご家族で以前は楽しんでおられたそうです。

隣の席に女性と顔なじみのお客さんが見えました。「あら、久しぶり!」ふたりは笑顔であいさつを交わしています。その会話に秋里さんが自然と入っていきます。彼は、お一人ずつお客様のお名前を憶えていて、皆さんにあいさつをします。「街中で会っても、この調子でね、気さくにあいさつしてくれるんだよ」。その男性は声を弾ませて、少し照れたようにおっしゃいました。13時半を過ぎるとマージャン目的のお客さんが増えてきました。

さっきまで水のおかわりを入れてくれていた女性と秋里さんが隣の席で昼食をとっています。マージャンの先生という方が席分けのくじを配りました。14時が開始時間ですが、10分前にもなると、準備が始まります。誰からともなく、テーブルを移動して、あつという間に店内には三つのジャン卓が出来ました。お客さんによると、この日はいつもより人数が少ないとのこと。三つ目にはどなたも座らず、ちょうど8人。多い日には三つでは足りず、勝った人から抜けて交代制にして楽しんでいる、と教えていただきました。

さっそく始まりました。ワンドリンク制(200円〜)なので皆さん自分の飲み物を持って席に着かれています。先生もいいますが、勝手知ったる我が家…という感じでご自分たちのペースで楽しまれています。年齢層は見た感じでは推し量れませんが、高齢者の方々が中心です。手先も使うし、点数の計算もすぐにしなきゃならないから頭も使うし、なかなか身体にいいのではないかと思います。皆さん、策を練っているのかいないのか、ニンマリ笑ったり、負けて笑ったり、おしゃべりしつつだったり、とてもリラックスして楽しそうです。

多彩なサロンメニュー

ふらっと新宿・落合店には、マージャンの他にも「サロンメニュー」がいろいろあります。マージャン同様、囲碁・将棋はワンドリンク制です。手話教室と朗読会は参加費無料です。版画教室と日本画教室は、予約が必要で参加費が必要ですが、講師の先生が初心者にもやさしく、丁寧に指導してくれます。(参加費は500〜700円)店に飾ってある絵画は、それぞれの先生の作品だったのです。日本画教室の先生は、ラバンスの理事長さんだそうです。小物作りは、趣味的なものから実用的な小物までバラエティ豊かで、予約はいりませんが、500円参加費がかかります。

どのプログラムも地域の方々が見えやすい場所として集まっているようです。こんなに地域に馴染んで溶け込んでいる食堂・喫茶店があるでしょうか。

サロンがない日は、11時〜13時半まではランチでそれ以降17時まではカフェの営業となります。

あゆみの家ともいい関係

あゆみの家とも縁があり、落合地域の福祉関係者が集って地域福祉を語り合う「落合・つながるカフェ」に毎回参加しています。支援している利用者の障害の内容や抱える困難さは違っても施設として地域社会との繋がりが協力をお願いしたいという思いは同じです。

11月10日に開催される「あゆみ祭」でも模擬店コーナーに出店してお祭りの盛り上げに協力していただきます。お祭りでは、お店の調理機材を持ち込んで落合店の人気メニュー「五目ちらし」を提供して、来場者の皆さんをおもてなししていただけるのでとても楽しみです。もちろん私も今回は、ぜひ、大盛りで食べてみたいです。皆さんも中井界隈においての際は、ぜひ一度はふらっと、ふらっとに立ち寄ってみませんか?